

平成 19 年 10 月 12 日

各 位

会 社 名 株式会社ピーイング
 代表者名 代表取締役社長 津田 能成
 (JASDAQ コード 4734)
 問合せ先 経理部長 後藤 伸悟
 (TEL . 059 - 227 - 2932)

特別損失の計上および業績予想の修正に関するお知らせ

当社は平成 20 年 3 月期において下記のとおり特別損失の計上のお知らせをいたします。
 また、平成 19 年 8 月 8 日付当社「平成 20 年 3 月期第 1 四半期財務・業績の概況（非連結）」
 において発表いたしました平成 20 年 3 月期中間期（平成 19 年 4 月 1 日～平成 19 年 9 月 30
 日）および平成 20 年 3 月期（平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日）業績予想を下記
 のとおり修正いたします。

記

1. 減損損失による特別損失の計上について

地価の下落している本社土地を含む当社の固定資産について「固定資産の減損に係る会計
 基準」に従って、140 百万円の減損損失を特別損失に計上する予定であります。

2. 平成 20 年 3 月期業績予想の修正について

(1) 中間期（平成 19 年 4 月 1 日～平成 19 年 9 月 30 日）

(単位：百万円、%)

	売 上 高	営業利益	経常利益	中間純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	1,200	45	40	50
今 回 修 正 予 想 (B)	967	310	300	450
増 減 額 (B - A)	233	265	260	400
増 減 率 (%)	19.4	-	-	-
(ご参考) 前期実績(平成 19 年 3 月中間期)	1,016	154	152	159

(2) 修正の理由

売上高につきましては、マネジメント改革ソリューション『BeingManagement-CCPM』をはじめとするTOC関連アプリケーションは、前年同期に比して大幅に販売を伸ばしておりますが、大型商談の長期化などの影響から期初の計画には達しておらず、また建設業向けアプリケーションにおいては、主力の土木工事積算システム『Gaia』が公共工事の削減の影響などから販売単価が下落し、全体の売上は計画を下回る見通しとなりました。

経常利益につきましては、利益率の高いパッケージソフトウェアの販売という事業の性質上、売上高の減少が直接的に利益の減少につながったことに加えて、TOC関連アプリケーションの戦略的な営業展開のための人的先行投資や、販売促進活動などを積極的に行った結果、販売費及び一般管理費が増加する見通しとなったため予想を修正いたします。また、前述の減損損失を当中間期の特別損失に計上する予定であり、中間純利益の予想を修正いたします。

(3) 通期 (平成 19 年 4 月 1 日 ~ 平成 20 年 3 月 31 日)

(単位 : 百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	2,600	100	110	90
今回修正予想 (B)	2,370	210	190	350
増減額 (B - A)	230	310	300	440
増減率 (%)	8.8	-	-	-
(ご参考) 前期実績 (平成 19 年 3 月期)	1,920	453	444	462

(4) 修正の理由

売上高につきましては、中間期の売上高が計画を下回ったことから修正いたします。なおこの間取り組んで参りました建設業向けアプリケーションとTOC関連アプリケーションとの販売におけるシナジーの追求などの取り組みの成果は、下期以降において順次成果として結びついてゆく見通しであり、下期自体の販売計画については現時点で変更しておりません。

経常利益につきましては、今後さらにTOC関連アプリケーションの市場への展開速度を速めるべく、引き続き積極的な営業活動を展開する計画であるため、販売促進に係る費用の増加などを勘案し修正いたします。また、当期純利益につきましては、中間期に計上予定の減損損失を織り込んだ予想としております。

上記予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因により予想数値と異なることがあります。

以 上